

授業科目名	ピア・サポートを学ぶ～支えあいの大学のために		
科目番号	1207011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 水 3
担当教員	杉江 征, 田附 あえか, 田中 崇恵, 慶野 遥香		
授業概要	本科目では、ピア・サポートの理念や実際に行われている活動を講義形式で学ぶ他、多くのワークを通してコミュニケーションスキルや実際に筑波大学の中で必要なピア・サポート活動をプランニングしていく力を養い、ピア・サポーターになるための基本的な心構えとスキルを身に付けていく。		
備考	【事前登録対象】(心理開設) 【定員 120 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	ピア・サポートとは、学生の視点から学生どうし(ピア)の支え合い、サポートをする活動のことである。 授業では、ピア・サポートの理念や実際に行われている活動を講義形式で学ぶ他、多くのワークを通してコミュニケーションスキルや実際に筑波大学の中で必要なピア・サポート活動をプランニングしていく力を養い、ピア・サポーターになるための基本的な心構えとスキルを身に付けていく。 ピア・サポート活動は、学生同士の支え合い、居場所機能の提供、自殺予防や学生支援の一層の充実を図るものであり、筑波大学での学生生活を学生自らの目線で考え、問題を発見し、コミットしていくという実践的な力を養成する。		
到達目標	この授業を受講することで、ピア・サポーターの養成及び相互扶助の精神を養うほか、それを学内コミュニティに広げていく力をつける。また、多くの実習を通し問題発見能力やコミュニケーション力を養い、大学生活のみならず社会においても人との関わりの中で自立的に考え、行動を起こせる力を育む姿勢を身につけていく。		
キーワード	ピア・サポート, 学生同士の支え合い, 心理学, 心理的発達, コミュニケーション, プランニング, ゲートキーパー		
各回授業計画	<p>第 1 回【ピア・サポートを始めよう 10 月 2 日 担当:杉江】 ピア・サポートについての基本的な理論やさまざまな実践例を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 2 回【支えあいの理論～自己理解と他者理解 10 月 9 日 担当:田中】 ピア・サポートを行う上で重要な自己理解と他者理解について学び、ワークを行う。</p> <hr/> <p>第 3 回【大学生の心理的発達課題 10 月 16 日 担当:田附】 大学生が抱えやすい問題や悩みごとについて学び、ピア・サポート活動に活かせる土台を作っていく。</p> <hr/> <p>第 4 回【コミュニケーションスキル 1～聴くスキル 10 月 23 日 担当:岩藤】 人の悩みや話をいかに共感的に聴くか、そのための理論を学び、ワークを行う。</p> <hr/> <p>第 5 回【コミュニケーションスキル 2～話すスキル 10 月 30 日 担当:田附】 自らの考えを適切に他者に伝える方法についてワークを通して学ぶ。</p> <hr/> <p>第 6 回【コミュニケーションスキル 3～ソーシャルスキル 11 月 13 日 担当:田中】 集団や社会の中で適切に他者と関わる方法についてワークを通して学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回【ピア・サポートにおける守秘義務と限界 11 月 20 日 担当:杉江】 ピア・サポート活動を行う上で守るべきルールや活動倫理、生じうるトラブルへの対処について学ぶ。</p> <hr/> <p>第 8 回【ピア・サポート・プランニング 1 12 月 4 日 担当:田中】 筑波大学の中で必要だと考えられるピア・サポート活動の種をグループで探し、実際の活動のプランニングを行う。</p> <hr/> <p>第 9 回【ピア・サポート・プランニング 2 12 月 11 日 担当:岩藤】 プランニング 1 に引き続き、筑波大学で実際に展開できるピア・サポート活動についてグループでプランニングを行う。</p> <hr/> <p>第 10 回【グループ発表と総括 12 月 18 日 担当:杉江・田附・岩藤】 プランニングのグループ発表と授業全体の総括を行う。レポート提出。</p>		
履修条件	受講人数が多い場合には受講調整を行う。		
成績評価方法	グループワークと発表 (50%)・レポート (50%) で授業の目的がどの程度達成されているかという観点から評価する。		

授業外における学習方法	必要に応じてピア・サポートに関する情報を集め、関連する事柄に関する学習をすること。 また、グループで企画を立案し、それを発表するので、授業時間以外を用いてグループで話し合いなどを進めること。
教材・参考文献	授業で随時紹介する。
オフィスアワー・連絡先	杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 田附 あえか tatsuki at human.tsukuba.ac.jp 田中 崇恵 takae.tnk at human.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	筑波大学での学生生活に積極的に関与していこう、問題を発見し解決しようという姿勢を歓迎する。一緒に学生生活を豊かにしていこう!

授業科目名	おもてなし学 グローバルマナーと異文化コミュニケーション		
科目番号	1210221	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 水 4
担当教員	江上 いずみ		
授業概要	<p>・国際人として、自国の文化と歴史、礼儀作法の成り立ちを理解し、正しく伝えられる知識を身に付ける</p> <p>・また諸外国の習慣やマナーを尊重して、異文化コミュニケーションの原点を理解する</p> <p>・言語や宗教、文化や歴史が違えばマナーもまた国によって異なるのは当然である、という認識のもと、互いの習慣やしきたりの違いを尊重しあって基本となるプロトコルの原則を心得る</p> <p>・2020年東京大会に向けて開催国日本のボランティアとして必要なグローバルマナーを学ぶ</p>		
備考	<p>【事前登録対象】(体育開設)</p> <p>【定員 150 名】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>3</p> <p>・国際人として、自国の文化と歴史、礼儀作法の成り立ちを理解し、正しく伝えられる知識を身に付ける</p> <p>・また諸外国の習慣やマナーを尊重して、異文化コミュニケーションの原点を理解する</p> <p>・言語や宗教、文化や歴史が違えばマナーもまた国によって異なるのは当然である、という認識のもと、互いの習慣やしきたりの違いを尊重しあって基本となるプロトコルの原則を心得る</p> <p>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、開催国日本のホスト役として如何に行動すべきか、誇りあるグローバルマナーを学ぶ</p> <p>・上記の学習を通してスポーツボランティアの素養を身につける</p>		
到達目標	国際人として必要なマナースキルを学び、相手の文化や習慣を尊重しつつ臨機応変な対応ができる判断力とスポーツボランティアの素養を身につける		
キーワード	異文化理解, マナー, ボランティア, オリンピック		
各回授業計画	<p>一方的な講義ではなく、できる限り参加型の授業を進めていく。パワーポイントによる講義形式を主とするが、ロールプレイを通してすぐに役立つグローバルマナーを身に付ける。</p> <p>第1回【4月17日 江上いずみ】 [日本の文化「おもてなしの心」] オリエンテーション 1 授業の概要、進め方、テキストの説明など 2 オリンピック・パラリンピック教育としての「おもてなし学」 3 マナー大国日本の「おもてなし」とは何か 4 東京 2020 大会のボランティア構想 現状と課題</p> <hr/> <p>第2回【4月24日 江上いずみ】 おもてなしを表現する 5 原則 第一印象の構成要素 「視覚」と「聴覚」の第一印象</p> <hr/> <p>第3回【5月8日 江上いずみ】 就活(勝)に向けてのグローバルマナー より良い自己表現力 プロトコル(外交儀礼)の5原則</p> <hr/> <p>第4回【5月15日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり(1)] 「冠」のしきたりとマナー ～「冠」の時代による変遷と通過儀礼を知る～</p> <hr/> <p>第5回【5月22日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり(2)] 「婚」のしきたりとマナー ～祝儀の宗教による違いと時代の変遷を知る～</p> <hr/> <p>第6回【5月29日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり(3)] 「葬」のしきたりとマナー ～不祝儀の宗教による違いと時代の変遷を知る～</p> <hr/> <p>第7回【6月5日 江上いずみ】 [日本の文化としきたり(4)] 「祭」のしきたりとマナー ～日本における年中行事の由来と変遷～</p>		

	<p>第8回【6月12日 江上いずみ】 エチケットとマナー、礼儀と作法の違い マナーの時代的背景と歴史（日本のマナーと西洋のマナーの成り立ち） 1964年東京大会における「おもてなし教育」</p> <hr/> <p>第9回【6月19日 江上いずみ】 開催国ホスト役としてのボランティア精神とおもてなしを学ぶ 自国の食文化を知る（美しい箸使いとタブー） 和室での立ち居振舞い</p> <hr/> <p>第10回【6月26日 江上いずみ】 より良いコミュニケーション法 グローバルマナーとしての挨拶 ～「おもてなし大国 日本」のあり方と今後の課題～</p> <hr/> <p>第11回【7月3日】 期末試験</p>
履修条件	なし
成績評価方法	出席（マナーを学ぶ学生としての授業態度）；50% 毎授業の出席カード裏面コメント評価；10% 期末テスト；40% 原則、全回出席を単位認定要件とする
授業外における学習方法	体得したグローバルマナーをスポーツイベントや日常生活の中で実践する。 学修した日本文化を外国人留学生などに伝授する。
教材・参考文献	江上いずみ『幸せマナーとおもてなしの基本』（海竜社）および 江上いずみ『心づかいの極意』（ディスカバートゥエンティワン）をテキストとして使用する
オフィスアワー・連絡先	オフィスアワーは特に定めない。江上いずみ:izumiegami@outlook.jp
履修者へのメッセージ	就職活動におけるマナー、立食パーティにおける立ち居振る舞いなど、学生にとってもすぐに役立つ内容ばかりなので、頭と身体を使って積極的に授業に参加してください。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに生かせるグローバルマナーをスポーツボランティアの素養として身に付けましょう。

授業科目名	知の探検法		
科目番号	1220021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 C 月 1,2
担当教員	宇陀 則彦, 辻 慶太		
授業概要	一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は最先端をいく図書館です。本科目では、知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
備考	【事前登録対象】(知識開設) 知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。2018 年度までに開設された 1220011「知の探検法」を修得済みの者は履修不可。 【定員 80 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2 大学における勉強は、自律的かつ能動的で、高校のようにあれこれ指図されることはありません。勉強したいことがあれば好きなだけしてよいのです。けれども、好きなことを勉強してよい反面、勉強の仕方、調べ物の仕方は自分で工夫しなければなりません。一流の研究者、一流のジャーナリスト、一流の作家は調べ物の楽しさを知っています。彼らは知の探検家なのです。そして、探検の過程で彼らが最も頼りにするのは今も昔も本であり、また雑誌論文、新聞記事などです。これら知の探検に必要な道具はすべて図書館に揃っています。筑波大学附属図書館は国内最高・最先端であり、その資料はインターネットを通じて自宅で読んだり調べたりすることができます。本科目では、インターネット上の各種データベースといった知の探検に不可欠な情報探索ツールの使い方を重点的に学びます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや論文のテーマに応じて適切な情報資源を選択できるようになること。</li> <li>・電子ジャーナルやデータベースから適切な文献を検索できるようになること。</li> <li>・レポートと論文が感想文とはどう違うのかを説明できること。</li> </ul>		
キーワード	文献検索, データベース利用法, 図書館利用法		
各回授業計画	<p>第 1 回【1 月 6 日 (月)1 限 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [サーチエンジン] 代表的なサーチエンジンである Google の便利な使い方を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 6 日 (月)2 限 宇陀則彦 図書館情報メディア系】 [ディスカバリサービス] 複数の電子ジャーナルやデータベースを一括検索できるディスカバリサービスの特徴について学ぶ。</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 22 日 (振替授業日)(水)1 限 渡邊朋子 附属図書館】 [図書の探し方] 蔵書検索システムである OPAC を使って図書の探し方を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 22 日 (振替授業日)(水)2 限 守谷美佐子 附属図書館】 [国内論文の探し方] 学術情報ナビゲータ CiNii Articles を使って国内論文の探し方を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 27 日 (月)1 限 藤田祥子 附属図書館】 [海外論文の探し方] 代表的な雑誌論文データベースである ProQuest Central および Web of Science の使って海外論文の探し方を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 27 日 (月)2 限 渡邊朋子 附属図書館】 [学術雑誌と電子ジャーナル] 参考文献の読み取り方および雑誌の種類の違いについて学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回【2 月 3 日 (月)1 限 全員】 [文献探索ゲーム (第 1 回)] これまで学んだことを駆使して、あるテーマに関する文献を実際に探索する。</p> <hr/> <p>第 8 回【2 月 3 日 (月)2 限 辻慶太 図書館情報メディア系】 [辞典、百科事典] ブリタニカ百科事典、JapanKnowledge 等を使って事項を調べる。</p>		

	<p>第9回【2月10日(月)1限 全員】 [文献探索ゲーム(第2回)] これまで学んだことを駆使して、あるテーマに関する文献を実際に探索する。</p> <hr/> <p>第10回【2月10日(月)2限 辻慶太 図書館情報メディア系】 [インターネットアーカイブ] Internet Archive を使って過去の Web ページを見る。</p>
履修条件	知識情報・図書館学類学生の受講は認めない。2018年度までに開設された1220011「知の探検法」を修得済みの者は履修不可。
成績評価方法	各回の小レポート(30%)、文献探索ゲームと最終レポート(70%) 文献探索ゲームの回の出席は不可欠。
授業外における学習方法	調べものをするときは本科目で学んだことを活かす。
教材・参考文献	1. 「知の探検法」テキスト
オフィスアワー・連絡先	宇陀 則彦 春(金6) 秋(木5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp <a href="http://niccoli.slis.tsukuba.ac.jp/">http://niccoli.slis.tsukuba.ac.jp/</a> 辻 慶太 水 12:00-13:00 7D512 keita at slis.tsukuba.ac.jp <a href="http://slis.sakura.ne.jp/">http://slis.sakura.ne.jp/</a>
履修者へのメッセージ	出席すれば単位がとれる科目ではありません。毎回宿題があります。楽な科目ではありませんが、文献探索がうまくなりたい人には必ず役に立ちます。

授業科目名	キャリアデザイン入門～世界にはばたく未来の自分～		
科目番号	1226014	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 水 3
担当教員	未富 真弓, 五十嵐 浩也		
授業概要	日本人学生と外国人留学生の双方が、自己と文化の理解を促進し、異文化コミュニケーションスキルを向上させ、個々の学生が人生のなかでも重要な期間である大学での生活を、積極的かつ有意義に過ごし、その後の人生設計 (キャリア・デザイン) の準備に不可欠の基礎作りをすることを目的とします。特に、社会と関わる力、変化する社会の中で主体的に生きるために必要な力を発展させることを目指します。なお、この授業の使用言語は日本語と外国語を交え合い、スライドや配布物等はすべて日英併記とします。		
備考	【事前登録対象】(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター企画) 【定員 100 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群			
水準・区分			
教育目的	日本人学生と外国人留学生の双方が、自己と文化の理解を促進し、異文化コミュニケーションスキルを向上させ、個々の学生が人生のなかでも重要な期間である大学での生活を、積極的かつ有意義に過ごし、その後の人生設計 (キャリア・デザイン) の準備に不可欠の基礎作りをすることを目的とします。特に、社会と関わる力、変化する社会の中で主体的に生きるために必要な力を発展させることを目指します。		
到達目標	1. 未来の自分は過去と現在とこれからの自分の積み重ねであることを意識しながら、大学生活の目標を明確にし、キャリアデザインの力を発展させることができるようになる。 2. グローバル社会の中で、異文化コミュニケーションスキルを向上させ、異なる文化の人と協働できるようになる。		
キーワード	キャリア, グローバル, 就職, つくばキャリアポートフォリオ (CARIO)		
各回授業計画	<p>この授業の使用言語は日本語と外国語を交えながら行い、スライドや配布物等はすべて日英併記とします。</p> <p>第 1 回 10 月 2 日:五十嵐浩也先生 芸術系 オリエンテーション～自分について考え、キャリアデザインを行う心の準備をする～ シラバスを確認し、講座への期待の共有、大学に入った目的や日々の大学生活を振り返り自分について棚卸して、他者に表現してみる練習をするなどを通し、講座全体を想像し、モチベーションを高める。</p> <hr/> <p>第 2 回 10 月 9 日:(未定) アンコンシャス・バイアスと自分 自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方が、グローバル社会やダイバーシティの観点からキャリアデザインしていく上でどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。</p> <hr/> <p>第 3 回 10 月 16 日:五十嵐浩也先生 芸術系 協働学習について グローバル社会においてキャリア形成をしていく上で、重要となる協働学習についてその意義や進め方、プレゼンテーションについて学ぶ。</p> <hr/> <p>第 4 回 10 月 23 日:五十嵐浩也先生 芸術系/関崎博紀先生 人文社会系 日本文化・日本事情～日本で学ぶこと・働くことを中心に～ 日本社会で働く上で知っておくとよい就職活動の仕組みやビジネスマナー、日本でのキャリアパス (博士人材含む) の例を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 5 回 10 月 30 日:森尾貴広先生 国際室 国際人を目指して～国際化された大学での学びより～ 国際化された大学としての筑波大学の取組を中心に、日々過ごしているキャンパスの環境について学び、自身の学生生活について考える。</p> <hr/> <p>第 6 回 11 月 13 日:森尾貴広先生 国際室 海外オフィス (アルマトイオフィス) と LIVE 中継～海外で学ぶこと・働くことを中心に～ 海外オフィスとの LIVE 中継を通して、海外留学の意義や、海外で働く上で知っておくとよい就職事情、海外でのキャリアパス (海外での博士人材の位置づけなども含む) の例を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回 11 月 20 日:五十嵐浩也先生 芸術系/関崎博紀先生 人文社会系 グローバル企業の実践紹介 1 企業による実践紹介を通して、グローバル社会での働き方について学ぶ。</p>		

	<p>第 8 回 12 月 4 日:五十嵐浩也先生 芸術系/関崎博紀先生 人文社会系 協働学習の成果発表の実施 1</p> <hr/> <p>第 9 回 12 月 11 日:五十嵐浩也先生 芸術系/関崎博紀先生 人文社会系 協働学習の成果発表の実施 2、及びグローバル企業による実践紹介 2</p> <hr/> <p>第 10 回 12 月 18 日:五十嵐浩也先生 芸術系 まとめ「協働学習の振り返りと、未来の自分に向けてアクションプラン作成」 協働学習における学びを他者と共有しながら、グローバル社会における自身のキャリアデザイン について考え、これからのアクションプランの作成・共有する。</p> <hr/> <p>第 11 回期末レポート</p>
履修条件	
成績評価方法	授業参加 (グループディスカッション、チーム貢献) への積極性 (30%)、毎時間の振り返りシート (20%)、期末レポート (50%) に基づき、A+~D の評点を総合的に評価する。
授業外における学習方法	授業外にプレゼンテーション等の準備を課す。
教材・参考文献	授業中に配布する資料に沿って進める。指定する教科書は特になし。また授業中に参考図書を随時紹介する。
オフィスアワー・連絡先	メール (career@un.tsukuba.ac.jp) またはダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (スチューデントプラザ 2F:就職課窓口と共通) で予約の上、随時。
履修者へのメッセージ	異文化間の学習機会を最大限に生かすために、授業に積極的に参加し、文化的背景や言語レベルの違いを尊重することを期待する。 日本語力は求めないが、クラスメートと日本語等でコミュニケーションできることを期待する。



授業科目名	心と体に安全で快適なキャンパス I-こころのヘルスリテラシー講座-		
科目番号	1226021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 火 5
担当教員	太刀川 弘和		
授業概要	この授業では、充実した学生生活が送れるように、大学生が学生生活の中で出会う様々な問題を取り上げながら、それに対処するための知識とスキルについて学習することを目的としています。具体的には、大学生が抱える様々なこころの問題や病気を、身近な事例や文学、映画、社会現象などを通じて心理学と精神医学を基に学習し理解を図るとともに、実際のスキルトレーニングなども行っていく予定です。		
備考	【事前登録対象】(保健管理センター企画) 【定員 150 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	この授業では、これから始まる大学生活が充実したものになるように、大学生が出会う様々な問題を取り上げながら、それに対処するための知識とスキルについて学習することを目的とする。特に、大学生が抱えやすいこころの問題や病気を、文学、映画、音楽、社会現象などを通して心理学と精神医学をもとに学習する。さらに、災害や自殺などこころの危機に至った場合の対応スキルトレーニングも行い、実践的な講座を展開する。		
到達目標	大学生活で生じる様々な心理的課題、メンタルヘルス上の問題、精神疾患についての正しい知識(ヘルスリテラシー)を身につけ、困難な状況への対処法について学び、実践できるようにする。これを発展させることで、心のウェルネス、レジリエンスの強化を目指す。		
キーワード	メンタルヘルス・リテラシー、精神疾患、災害、自殺予防、ウェルネス、レジリエンス、ひきこもり、休学・留年、ゲートキーパー		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 16 日 太刀川弘和 災害・地域精神医学 医学医療系】 [悩むと病む:大学生活におけるこころの問題] 大学生の生活や学習環境の変化に伴って生じるストレスやメンタルヘルス問題を知り、対処法を学ぶ。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 23 日 佐藤晋爾 茨城県地域臨床教育センター精神科 医学医療系】 [メンタルヘルスの歴史] 精神医学、メンタルヘルスの歴史をカルチャーとの関連で学ぶ。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 7 日 松崎朝樹 臨床医学域精神医学 医学医療系】 [こころの病気 1:うつ病、気分障害] うつ病、気分障害の症状やメカニズムをわかりやすく学習する。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 14 日 佐藤晋爾 茨城県地域臨床教育センター精神科 医学医療系】 [こころの不調 2:統合失調症] 統合失調症の症状と対応についてアートを用いてわかりやすく学ぶ。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 21 日 袖山紀子 保健管理センター精神科 医学医療系】 [こころの不調 3: 摂食障害、パーソナリティ障害] 摂食障害・パーソナリティ障害の心理機制や対応の上の注意点を学習する。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 28 日 太田深秀 保健管理センター精神科 医学医療系】 [こころの不調 4:不安症・強迫症] 不安症・強迫症の症状と対応について学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 4 日 白鳥裕貴 保健管理センター精神科 医学医療系】 [こころの不調 5:発達障害] 発達障害の診断・症状・生活上の留意点について学ぶ。</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 11 日 高橋晶 災害・地域精神医学 医学医療系】 [災害時のこころのケア] 災害で生じるこころの問題と被災地でのケア、心構えについて実践的に学ぶ。</p> <hr/> <p>第 9 回【6 月 18 日 太刀川弘和 災害・地域精神医学 医学医療系】 [自殺予防と危機介入の方法] メンタルヘルスの危機(自傷・自殺)への介入法とスティグマについて理解し、ロールプレイを通して体験的に学ぶ。</p>		

	<p>第 10 回【6 月 25 日 齋藤環 社会精神保健学 医学医療系】 [ひきこもりの予防と対応] 若者のひきこもりの実態と対応のありかたについて学ぶ。</p> <hr/> <p>第 11 回【7 月 2 日 期末試験】 レポート提出</p>
履修条件	秋学期の「心と体に安全で快適なキャンパス II-救命救急処置とファーストエイド」を合わせて履修するのがお勧め。
成績評価方法	聴講した講義のうち 2 つのレポート課題を選択し、各レポートを 50 点満点として評価する。
授業外における学習方法	行事（宿舍祭、スポーツデイ、学園祭など）や課外活動（サークル、T-ACT など）に参加する。
教材・参考文献	授業で随時紹介する。
オフィスアワー・連絡先	火曜日午後、保健管理センター 内線 2415 白鳥裕貴 shiratori.yuki.gp@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	本を読み、映画を観て、音楽を聴く。人と話し、恋をして、旅に出る。

授業科目名	みんなで創ろう「つくばアクションプロジェクト」		
科目番号	1226041	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 火 5
担当教員	加賀 信広, 黒田 卓哉		
授業概要	<p>自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思える活動を企画し、それを実現するための方法について学ぶことが本授業の目的です。そのために、つくばアクションプロジェクト (T-ACT) という学生支援制度について知ってもらいます。また、新しい人間関係の構築もこの講義の狙いです。したがって、講義の他にワークやグループワークなども行い、自分たちの「やってみたい」を形にしていくこととなります。個人ワークは、ワークシートを用いて自己を振り返り、自己理解を深めるようなワークを行います。グループワークでは、初対面の様々な学生とコミュニケーションを取り、自己理解と他者交流についての体験的な理解を深めます。また、学類間の垣根を越えてチームを組み、ひとつの企画を立案していくことが求められます。したがって、既に固定された友人関係などの枠にとらわれず、初対面の様々な他者と交流し、一緒に課題に取り組むこととなります。これらのワークに関しては、授業時間以外の活動が必要となる場合も多いと予想されます。グループワークを通じて立案された企画について、授業の後半にてチームごとの発表を行います。パワーポイントを用いて、受講生の前でプレゼンテーションを行うという形式となります。これらの取り組みに関して、授業時間以外であってもワークの指導や支援を講師に頼むことが可能です。皆さんの学生生活がより実り多きものになるための一つのきっかけとして、本授業に取り組んでいただくことを期待しています。</p>		
備考	<p>【事前登録対象】(学生生活支援室企画) 秋学期 (1226091) と同一内容のため、重複履修は不可。 【定員 120 名】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>本授業の目的は、小さなことでも大きなことでもかまいませんので、自分の興味関心に沿った活動を、主体的に企画し、関わっていき、実現するための方法や制度 (つくばアクションプロジェクト; 以下、T-ACT) について学ぶことです。</p> <p>学生のうちに「やってみたい」ことがある、けれど、その実現方法がわからない そんな学生のための授業です。もちろん、自分の「やってみたい」ことはわからないけど、学生生活を楽しみたいものになりたいという学生にとっても意義ある授業です。自分の「やってみたい」に正直に活動をしていくことが、ひいては社会で活躍するための大切な素地になります。</p>		
到達目標	<p>新しい活動に物怖じせず参加できること、体験を通じて自分の気持ちや考えを深められること、協調して活動をするためのコミュニケーションができること、人に働きかけて統率できること、自らの想いを実現するために企画できること、これらの力を身につけるのが本授業の目標です。今後の大学生活で「やってみたい」活動が生まれたとき、それを支援する制度である T-ACT を活用できるように、予備知識を得ておくことも目標です。</p> <p>副次的な目標としては、大学生活で必ず機会があるであろうこと (メールの作成方法やパワーポイントを用いた発表、発表での質疑応答など) を体験し、ある程度できるようになることも含まれます。</p>		
キーワード	つくばアクションプロジェクト (T-ACT), 参加力, 体験力, コミュニケーション力, 統率力, 企画力		
各回授業計画	<p>グループワーク中心の授業となります。初対面の人同士でコミュニケーションを取る機会も多い授業です。授業の中で組んだチームで、自分たちの「やってみたい」活動を企画立案し、そのプレゼンテーションを行うというのが全体の流れになります。</p> <p>第 1 回【4 月 16 日 (火) 加賀 信広 (人文社会系) ほか】 [オリエンテーション T-ACT って何だろう?] つくばアクションプロジェクト (T-ACT) の全体の概要や理念を紹介します。また、授業の進め方や目的、位置づけ、心構えなどのオリエンテーションを行います。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 23 日 (火) 黒田 卓哉 (学生部)】 [「やってみたい」はありますか?] 自分の「好きなこと」「やってみたいこと」を振り返り、他者と共有するワークを行います。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 7 日 (火) 黒田 卓哉 (学生部)】 [地域社会と T-ACT ボランティア] ボランティア活動の意義や実際について考えてみます。また、T-ACT ボランティアを利用し有意義なボランティアを行う方法について知ります。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 14 日 (火) 黒田 卓哉 (学生部)】 [新しい人間関係のはじめ方] 自分自身の「好きなこと」「やってみたいこと」を多くの他者と共有する体験を行います。それを通じて、気の合いそうな人と出会い、新たな人間関係を築きます。</p>		

	<p>第5回【5月21日(火)黒田 卓哉(学生部)ほか】 [企画立案のポイントとチームのはじまり] 「やってみたい」企画を実現するための方法や、チームで活動するためのポイントを学びます。授業内で組んだチームで「やってみたい」企画を考え始めます。</p> <hr/> <p>第6回【5月28日(火)黒田 卓哉(学生部)ほか】 [実現への道1 ルールと支援] 活動を行うにあたって、守るべきルールや危機管理について簡単に解説し、活用できる T-ACT の支援内容も紹介します。それを踏まえ、企画の内容を考えていきます。</p> <hr/> <p>第7回【6月4日(火)黒田 卓哉(学生部)】 [T-ACT アクションの実践例] これまで T-ACT を活用して、「やってみたい」活動を形にしてきた学生たちの実体験を知り、自分たちの企画立案に活かします。</p> <hr/> <p>第8回【6月11日(火)黒田 卓哉(学生部)】 [実現への道2 仕上げと発表に向けて] 自分たちの企画を仕上げていきます。また、発表にむけてプレゼンの作法やパワーポイントの作成のコツなどをレクチャーします。</p> <hr/> <p>第9回【6月18日(火)黒田 卓哉(学生部)ほか】 [T-ACT 企画案 発表会 1] グループごとに企画のプレゼンテーションを行い、質疑応答を行います。また、企画発表について学生自らが評価していきます。</p> <hr/> <p>第10回【6月25日(火)黒田 卓哉(学生部)ほか】 [T-ACT 企画案 発表会 2] 前回に引き続き、グループ別に企画案のプレゼンテーションを行い、質疑応答、企画発表の評価をしていきます。</p> <hr/> <p>第11回【7月2日(火)加賀 信広(人文社会系)ほか】 [企画表彰と課題などの確認] 発表会において高評価であったチームを表彰し、各企画へのフィードバックを行います。また、本授業の課題などを確認します。どのようなレポート課題が課せられるかは、授業の中で随時説明していきます。 講師の都合や授業の様子によっては順番が前後することもあります。</p>
履修条件	秋学期(科目番号 1226091)と同一内容のため、重複履修は不可です。 人数が多い場合には120名の上限まで受講調整を行いますのでご了承ください。
成績評価方法	A:選択式レポート課題(50%)... 授業内容の理解、各種活動への参加力 B:グループによる発表(30%)... 企画立案力、プレゼンテーション能力 C:授業への参加状況(グループワークへの取り組み、授業内での小課題への取り組み)(20%)... 積極性、関与の深さ
授業外における学習方法	事前に T-ACT について確認し、必要に応じて活動に関する情報を集めること。 また、チームで企画を立案し、それを発表するので、授業時間以外を用いてチームで話し合いなどを進めることが望ましいです。
教材・参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー・連絡先	T-ACT フォーラム 9:00~17:15 forum@t-act.tsukuba.ac.jp 黒田 卓哉 金曜日を除く平日 9:00~17:15 1D 棟 T-ACT フォーラム kuroda.takuya.gu at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	大学生には、積極的に様々なことを体験し、その体験から深く感じ、考え、学ぶことが求められています。本授業では、そういった自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。 そして、今後の大学生活を充実させるために、本授業の内容を学生生活でも活かすような心構えを持ってください。

授業科目名	筑波大学特別講義 大学と学問		
科目番号	1226051	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 BC 水 6
担当教員	後藤 嘉宏, 西岡 牧人, 設樂 宗孝		
授業概要	<p>本学の学長をはじめとする経験豊かな講師陣が、大学と学問、あるいは学問と人生について広いテーマで講義を行う。本講義は、大学で学ぶべきことや自分の今後の生き方についてじっくりと考えてみる機会を受講生に提供するとともに、明確な目的意識をもって自律的に学習していくことができるように、大学生生活と学問への道案内をすることを目的とする。さらに、学長をはじめ本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語ることにより、日本および世界において次世代の指導者となりうる有能な若者を育成する。</p>		
備考	<p>【事前登録対象】(教養教育機構企画) 【定員 700 名】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>2,3 学長をはじめ本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語ることにより、大学で学ぶ意義や自分の今後の生き方をじっくり考える機会を提供する。そのことにより、学習目的・学習動機の獲得・自律的な自己確立とキャリアプランづくりのきっかけを与える。</p>		
到達目標	<p>新入生をはじめとする受講生が、大学生生活に慣れて、明確な目的意識を持って自律的に学習できるようになる素地を養う。</p>		
キーワード	学長講義, 大学生生活, 学問と人生, 研究とは, 筑波大学		
各回授業計画	<p>第 1 回【5 月 29 日 逢坂 卓郎 筑波大学エンパワーメント情報学プログラム 特命教授】 [科学と芸術の融合 “光のコスモロジー 生命発生から宇宙へ”] 「なぜ、人は宇宙を目指すのか」この問いに挑戦すべく、2008 年から実施された宇宙ステーション JAXA JEM “KIBO” に於ける芸術実験について報告する。そして、無重力環境と地球外からの視点が新たな世界観を生むことを宇宙飛行士の体験やピラミッドなどの巨大な遺構の検証に基づいて考察する。また、航空機による学生無重力フライト実験についても紹介する。</p> <hr/> <p>第 2 回【6 月 5 日 熊倉 功夫 MIHO MUSEUM 館長】 [日本の食文化] 文化とは、人間が自然環境と歴史的環境の中で形成してきた生活技術と世界観の総体といえる。食生活はまさに文化の曲型で、日本には温暖なモンスーン気候と日本列島という風土に根ざし、異文化の接触の中で形成された日本文化の一つである。しかし、食文化が学問の対象となったのは比較的新しい。食文化を考える様々な視点を提示してみよう。</p> <hr/> <p>第 3 回【6 月 12 日 河野 一郎 ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事務総長代行】 [スポーツの力] 現代社会におけるスポーツは、驚異的な発展を遂げたばかりでなく、極めて大きな社会的影響力をもつに至った。今やスポーツは、政治的、経済的、さらに文化的にも、人々の生き方や暮らし方に重要な影響を与えている。このスポーツの力を活用し、スポーツの発展を人類社会が直面するグローバルな課題の解決に貢献するよう導くことは、未来へ向かう第一歩となる。(スポーツ宣言ニッポンより)</p> <hr/> <p>第 4 回【6 月 19 日 柳沢 正史 筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIS) 機構長】 [睡眠・覚醒の謎に挑む] 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。</p> <hr/> <p>第 5 回【6 月 26 日 永田 恭介 筑波大学 学長】 [大学と学問] 科学と技術の進歩は、人類社会に大きな発展をもたらした。しかし、一方ではエネルギー・資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についても地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創薬にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。</p>		

第6回【7月3日 日比谷 潤子 国際基督教大学 学長】

[世界の人々とともに]

大学進学を機に住み慣れた土地を離れ、新しい環境にわくわくしている人や不安を感じている人も少なくないだろう。これまでの限られた世界から外への一步を踏み出したみなさんを待っているのは、さまざまな出会いである。今後の学生生活、さらに大学卒業後に生きる世界においては、異なる背景や価値観を持つ人々と協働する力、対話と交渉によって物事を進めていく力が求められる。この講義では、このような力を身に付けるにはどうしたらいいかを考える。

第7回【7月10日 中鉢 良治 国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事長】

[豊かな社会に向けた科学技術の役割]

今日の経済繁栄の礎は、18世紀後半にイギリスで始まった産業革命によるところが大きいと言えますが、一方で、その歪みも顕在化してきました。講義では、産業革命をもたらした科学技術の光と影の側面を振り返るとともに、学問としての「科学」と社会に役立つ「技術」との橋渡しを進める産業技術総合研究所の取り組みも交えながら、「未来」の豊かな社会に求められる科学技術のあり方を考えたいと思います。

第8回【7月17日 鈴木 健嗣 筑波大学システム情報系 教授】

[人々を支援する人工知能とヒューマン・テクノロジー]

人々の残存機能や、本来有する能力を引き出すためのテクノロジーに関する研究を紹介する。これらは、人々の行動の深い理解に基づき、人工知能やロボット等の工学的な手法により行動形成を支援することで、人々が主体性を持って社会的な行動を行う未来を実現するための取り組みである。応用科学と社会実装に携わってきた経験を踏まえ、文理を超えた新しい学問分野や新産業を開拓するため、学術性と実践知を両立する学問の重要性について考える。

第9回【7月24日 落合 陽一 筑波大学図書館情報メディア系 准教授】

[コピキタスからデジタルネイチャーへ:アート・エンターテインメント・デザイン]

我々はコピキタスコンピューティングの先に「計算機自然 (Digital Nature)」の到来を見据えています。計算機自然では、人と機械、物質世界 (Material World) と実質世界 (Virtual World) の間に、今までの工業化社会よりも多様な未来の形が起こりうると考えられます。本研究室は、そういった物質性と実質性の間で、計算機応用のもたらす様々な選択肢を想定し、それらを計算機科学的に実装することで、産業・学問・芸術に至る様々な問題解決に挑戦し、人・計算機・自然における新たな文化的価値の創成を目指しており、そのケーススタディや現在に至るメディア史などを紹介する。

第10回【7月31日 赤阪 清隆 公益財団法人フォーリン・プレスセンター 理事長】

[グローバルに働くことの面白さ]

国連などの国際機関は、戦争のない平和な世界や、貧困、伝染病の撲滅など、崇高な理想を追い求めることを使命としている。そこは、培った学問の成果を実地に生かし、努力した結果が目に見える極めて充足感の高い魅力的な職場である。4つのそのような国際機関で働いた自らの経験をもとに、国際機関で働くことの魅力を示し、まだ数少ない日本人職員の増大への期待を語る。

履修条件	特にありません。
成績評価方法	毎回、授業直後の10分程度を利用し、講義の内容に関する小レポート作成を課します。全ての講義の小レポートの内容で評価します。
授業外における学習方法	講演者の著作を幅広く読むこと
教材・参考文献	特にはありません。印刷資料が配布されたり、参考文献が紹介されたりすることがあります。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	筑波大学ならではの豪華な講師陣による講義です。

授業科目名	世界の TSUKUBA で学ぶ		
科目番号	1226071	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 1
担当教員	大友貴史		
授業概要	グローバル化が急速に進む中で、本学は「国際性が日常化した大学環境の実現」並びに「知の世界拠点として世界と共生する大学」を目指している。本科目の目的は、第一に、本学の国際化の方向性と実情、並びに筑波大学と世界との関わりを知ると共に、筑波研究学園都市という特徴のある地域社会の中で学ぶことの意義を考えることにある。第二に、日本が置かれている国際的な環境と日本がこれまで世界で行ってきた数々の貢献を知ることにより、筑波大学において皆さんが今後どのような意識を持って学ぶかについて、あらためて考える機会を提供することである。このように、本授業は今後学生生活の方向性を定めるきっかけとしてだけでなく、卒業後の進路を考える上での材料を提供することを目標としている。		
備考	【事前登録対象】(教養教育機構企画) 【定員 104 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	経済・社会のグローバル化が急速に進む中で、「グローバル人材」と呼ばれる世界を舞台に活躍する人材が求められていると同時に、大学も世界的な競争の中で「国際化」が求められている。筑波大学は「開かれた大学」の建学の理念のもと、「国際性が日常化した大学環境の実現」と「知の世界拠点として世界と共生する大学」を目指している。 本科目では、筑波研究学園都市という特徴ある地域社会との関わりの中での筑波大学の国際化の取組を縦系に、グローバル社会の中で求められる人材像を横系にした講義・ディスカッションを通して、学生諸君が「国際化」と向き合い、自己研鑽を重ねていくかを考えるきっかけを与えることを目的とする。		
到達目標	本学の国際化の基本方針や現状を理解すると共に、「国際性が日常化した」キャンパスライフに積極的に参加する態度を身に付ける。また、国際的視野を持って、卒業後の進路を考えることができるようになる。		
キーワード	大学の国際化, 筑波研究学園都市, 産官学連携, グローバル人材, 海外経験・留学		
各回授業計画	<p>本科目は以下の構成で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション/筑波大学における国際化の現状と課題</li> <li>2. 筑波大学と海外・国際機関との連携</li> <li>3. 筑波大学の海外における学術展開</li> <li>4. 筑波研究学園都市の研究機関との連携</li> <li>5. 相互依存と国際協力</li> <li>6. 国際協力と筑波大学</li> <li>7. グローバル人材について考える</li> <li>8. 海外留学の意義 (1)</li> <li>9. 海外留学の意義 (2)</li> <li>10. ディスカッション (1)</li> <li>11. ディスカッション (2)</li> </ol> <p>第 1 回【10 月 7 日 大友 貴史 人文社会系 人社 B503 (6512), 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263)】 [イントロダクション&amp;筑波大学における国際化の現状と課題] 授業の全体像、成績評価方法等の説明を行うと共に、本学の国際化の基本方針と取り組みの現状および課題について論ずる。</p>		

	<p>第2回【10月18日(振替授業日)調整中】 [筑波大学と海外・国際機関との連携] 国連等の国際機関や海外の機関との連携活動の紹介と国際機関での就職等について述べる。</p> <hr/> <p>第3回【10月21日 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 6263】 [筑波大学の海外における学術展開] 本学の海外における教育研究、海外拠点活動の展開と展望について、北アフリカ地域を例に紹介する。</p> <hr/> <p>第4回【10月28日 上原 健一 (有) つくばインキュベーションラボ TEL: 029-860-5188】 [筑波研究学園都市の研究機関との連携] 本学とつくば市内の主要な研究機関との産官学連携について紹介する。</p> <hr/> <p>第5回【11月6日(振替授業日)調整中 JICA 筑波 TEL:029-838-1111】 [相互依存と国際協力] 諸外国との相互依存関係の中で経済発展を遂げた日本の現状・今後の展望及び現在の経済的繁栄を維持・発展させるために一層求められる日本の国際化と国際協力について述べる。</p> <hr/> <p>第6回【11月18日 調整中 JICA 筑波 TEL:029-838-1111】 [国際協力と筑波大学] 国際協力機構(JICA)を中心とした政府開発援助(ODA)の目的、経緯、事業の現状、課題と筑波大学との関わりについて述べる。</p> <hr/> <p>第7回【11月25日 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263)】 [グローバル人材について考える] 世間の関心とニーズが高まっている「グローバル人材」とはそもそも何かについて考察する。</p> <hr/> <p>第8回【12月2日 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263)】 [海外留学の意義(1)] 日本の若者の「内向き指向」が言われている一方で、「グローバル人材」に対する世間の関心が高まる昨今の状況下、改めて海外留学の意義について留学経験談を交えて論じる。</p> <hr/> <p>第9回【12月9日(森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263) 話題提供者 畑澤 敏彦 国際教育交換協議会】 [海外留学の意義(2)] 海外留学におけるリスク管理および異文化理解、海外留学の動機付けとしての海外ボランティア活動への参加の意義・魅力について論じる。</p> <hr/> <p>第10回【12月16日 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263)】 [ディスカッション(1)] 「大学の国際化の意義」に関する各自のレポートを基にグループディスカッションと発表を行う。</p> <hr/> <p>第11回【12月23日 森尾 貴広 国際室 本部アネックス棟 (6263)】 [ディスカッション(2)] 「筑波大学の国際化を推し進めるための3つの提案」に関する各自のレポートを基にグループディスカッションと発表を行う。</p>
履修条件	特になし。
成績評価方法	1. 授業・ディスカッションへの貢献度(発言、グループディスカッションの取りまとめなど):50%(15%x2回(ディスカッション(1)および(2))+20%(その他の回)) 2. レポート:50%(15%(ディスカッション(1))+15%(同(2))+20%(最終レポート))
授業外における学習方法	「大学の国際化」「個人レベルで国際性を身につけること」に対する問題意識を持ち、授業で紹介する文献・資料等による情報収集と知識の獲得と、英語カフェ、留学生・外国人との交流イベント、海外留学説明会等の国際関連イベントへの参加による実践。
教材・参考文献	授業中およびmanabaにて適宜紹介します。
オフィスアワー・連絡先	事前にアポを取って下さい。 代表連絡先 森尾貴広 内線 6263, email: morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	本学は学生の8人にひとりが留学生であり、また Campus-in-Campus の仕組みにより海外の大学の授業を本学の授業と同様に学ぶことが出来るなど国際性を身近に感じる環境にあります。この授業で学んだことを参考に、ひとりひとりが国際交流の主役として実践されることを望みます。



授業科目名	みんなで創ろう「つくばアクションプロジェクト」		
科目番号	1226091	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 水 4
担当教員	加賀 信広, 黒田 卓哉		
授業概要	<p>自分の興味や関心を活かし、自らが主体的に関わりたいと思える活動を企画し、それを実現するための方法について学ぶことが本授業の目的です。そのために、つくばアクションプロジェクト (T-ACT) という学生支援制度について知ってもらいます。また、新しい人間関係の構築もこの講義の狙いです。したがって、講義の他にワークやグループワークなども行い、自分たちの「やってみたい」を形にしていくこととなります。個人ワークは、ワークシートを用いて自己を振り返り、自己理解を深めるようなワークを行います。グループワークでは、初対面の様々な学生とコミュニケーションを取り、自己理解と他者交流についての体験的な理解を深めます。また、学類間の垣根を越えてチームを組み、ひとつの企画を立案していくことが求められます。したがって、既に固定された友人関係などの枠にとらわれず、初対面の様々な他者と交流し、一緒に課題に取り組むこととなります。これらのワークに関しては、授業時間以外の活動が必要となる場合も多いと予想されます。グループワークを通じて立案された企画について、授業の後半にてチームごとの発表を行います。パワーポイントを用いて、受講生の前でプレゼンテーションを行うという形式となります。これらの取り組みに関して、授業時間以外であってもワークの指導や支援を講師に頼むことが可能です。皆さんの学生生活がより実り多きものになるための一つのきっかけとして、本授業に取り組んでいただくことを期待しています。</p>		
備考	<p>【事前登録対象】(学生生活支援室企画) 春学期 (1226041) と同一内容のため、重複履修は不可。 【定員 120 名】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>本授業の目的は、小さなことでも大きなことでもかまいませんので、自分の興味関心に沿った活動を、主体的に企画し、関わっていき、実現するための方法や制度 (つくばアクションプロジェクト; 以下、T-ACT) について学ぶことです。</p> <p>学生のうちに「やってみたい」ことがある、けれど、その実現方法がわからない そんな学生のための授業です。もちろん、自分の「やってみたい」ことはわからないけど、学生生活を楽しみたいものにしたという学生にとっても意義ある授業です。自分の「やってみたい」に正直に活動をしていくことが、ひいては社会で活躍するための大切な素地になります。</p>		
到達目標	<p>新しい活動に物怖じせず参加できること、体験を通じて自分の気持ちや考えを深められること、協調して活動をするためのコミュニケーションができること、人に働きかけて統率できること、自らの想いを実現するために企画できること、これらの力を身につけるのが本授業の目標です。今後の大学生活で「やってみたい」活動が生まれたとき、それを支援する制度である T-ACT を活用できるように、予備知識を得ておくことも目標です。</p> <p>副次的な目標としては、大学生活で必ず機会があるであろうこと (メールの作成方法やパワーポイントを用いた発表、発表での質疑応答など) を体験し、ある程度できるようになることも含まれます。</p>		
キーワード	つくばアクションプロジェクト (T-ACT), 参加力, 体験力, コミュニケーション力, 統率力, 企画力		
各回授業計画	<p>グループワーク中心の授業となります。初対面の人同士でコミュニケーションを取る機会も多い授業です。授業の中で組んだチームで、自分たちの「やってみたい」活動を企画立案し、そのプレゼンテーションを行うというのが全体の流れになります。</p> <p>第 1 回【10 月 2 日 (水) 加賀 信広 (人文社会系) ほか】 [オリエンテーション T-ACT って何だろう?] つくばアクションプロジェクト (T-ACT) の全体の概要や理念を紹介します。また、授業の進め方や目的、位置づけ、心構えなどのオリエンテーションを行います。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 9 日 (水) 黒田 卓哉 (学生部)】 [「やってみたい」はありますか?] 自分の「好きなこと」「やってみたいこと」を振り返り、他者と共有するワークを行います。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 16 日 (水) 黒田 卓哉 (学生部)】 [地域社会と T-ACT ボランティア] ボランティア活動の意義や実際について考えてみます。また、T-ACT ボランティアを利用し有意義なボランティアを行う方法について知ります。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 23 日 (水) 黒田 卓哉 (学生部)】 [新しい人間関係のはじめ方] 自分自身の「好きなこと」「やってみたいこと」を多くの他者と共有する体験を行います。それを通じて、気の合いそうな人と出会い、新たな人間関係を築きます。</p>		

	<p>第5回【10月30日(水)黒田 卓哉(学生部) ほか】 [企画立案のポイントとチームのはじまり] 「やってみたい」企画を実現するための方法や、チームで活動するためのポイントを学びます。授業内で組んだチームで「やってみたい」企画を考え始めます。</p> <hr/> <p>第6回【11月13日(水)黒田 卓哉(学生部) ほか】 [実現への道1 ルールと支援] 活動を行うにあたって、守るべきルールや危機管理について簡単に解説し、活用できる T-ACT の支援内容も紹介します。それを踏まえ、企画の内容を考えていきます。</p> <hr/> <p>第7回【11月20日(水)黒田 卓哉(学生部)】 [T-ACT アクションの実践例] これまで T-ACT を活用して、「やってみたい」活動を形にしてきた学生たちの実体験を知り、自分たちの企画立案に活かします。</p> <hr/> <p>第8回【12月4日(水)黒田 卓哉(学生部)】 [実現への道2 仕上げと発表に向けて] 自分たちの企画を仕上げていきます。また、発表にむけてプレゼンの作法やパワーポイントの作成のコツなどをレクチャーします。</p> <hr/> <p>第9回【12月11日(水)黒田 卓哉(学生部) ほか】 [T-ACT 企画案 発表会 1] グループごとに企画のプレゼンテーションを行い、質疑応答を行います。また、企画発表について学生自らが評価していきます。</p> <hr/> <p>第10回【12月18日(水)黒田 卓哉(学生部) ほか】 [T-ACT 企画案 発表会 2] 前回に引き続き、グループ別に企画案のプレゼンテーションを行い、質疑応答、企画発表の評価をしていきます。</p> <hr/> <p>第11回【12月25日(水)加賀 信広(人文社会系) ほか】 [企画表彰と課題などの確認] 発表会において高評価であったチームを表彰し、各企画へのフィードバックを行います。また、本授業の課題などを確認します。どのようなレポート課題が課せられるかは、授業の中で随時説明していきます。 講師の都合や授業の様子によっては順番が前後することもあります。</p>
履修条件	春学期(科目番号 1226041)と同一内容のため、重複履修は不可です。 人数が多い場合には120名の上限まで受講調整を行いますのでご了承ください。
成績評価方法	A:選択式レポート課題(50%)... 授業内容の理解、各種活動への参加力 B:グループによる発表(30%)... 企画立案力、プレゼンテーション能力 C:授業への参加状況(グループワークへの取り組み、授業内での小課題への取り組み)(20%)... 積極性、関与の深さ
授業外における学習方法	事前に T-ACT について確認し、必要に応じて活動に関する情報を集めること。 また、チームで企画を立案し、それを発表するので、授業時間以外を用いてチームで話し合いなどを進めることが望ましいです。
教材・参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー・連絡先	T-ACT フォーラム 9:00~17:15 forum@t-act.tsukuba.ac.jp 黒田 卓哉 金曜日を除く平日 9:00~17:15 1D 棟 T-ACT フォーラム kuroda.takuya.gu at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	大学生には、積極的に様々なことを体験し、その体験から深く感じ、考え、学ぶことが求められています。本授業では、そういった自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。 そして、今後の大学生活を充実させるために、本授業の内容を大学生活でも活かすような心構えを持ってください。

授業科目名	卒業生によるオムニバス講座 (社会人としていかに生きるか)		
科目番号	1226101	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 木 6
担当教員	山岡 裕一		
授業概要	一口に「社会人」というが、彼らは何を考え、どのような生活をしているか。実際に社会で活躍している先輩達の経験から、社会人を目指す学生がこれからの学生時代の過ごし方について考える。		
備考	【事前登録対象】(総合科目編成部会企画) 【定員 200 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	社会人として本学で学んだことがどのように役立っているか、また社会人としていかに生きるか。社会の第一線で活躍されている本学の卒業生の在学時から就職後の体験談や考え方を聞くことによって、大学での学習、研究、あるいは生活体験が現代社会あるいは現代的課題とどのように結びついているかを理解する。		
到達目標	大学での学習、研究、あるいは生活体験が現代社会あるいは現代的課題とどのように結びついているかを理解することによって、勉学の動機付けや進路を考える上での参考にしてもらう。		
キーワード	OB, 卒業生		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 非常勤講師 人文学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 10 日 非常勤講師 国際総合学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 17 日 非常勤講師 教育学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 24 日 非常勤講師 生物学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 5 回【10 月 31 日 非常勤講師 数学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 非常勤講師 応用理工学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 21 日 非常勤講師 情報科学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 5 日 非常勤講師 看護学類】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 12 日 非常勤講師 体育専門学群】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 10 回【12 月 19 日 非常勤講師 芸術専門学群】 詳細が決定次第、各掲示板にて掲示する。</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 26 日 山岡 裕一 生命環境系】 [期末試験]</p>		
履修条件	特になし。		
成績評価方法	授業時に説明する。		
授業外における学習方法	特になし。		
教材・参考文献	適宜、授業時に紹介する。		
オフィスアワー・連絡先			
履修者へのメッセージ			

授業科目名	心と体に安全で快適なキャンパス II 救命救急処置とファーストエイド		
科目番号	1226121	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 1
担当教員	久賀 圭祐		
授業概要	<p>学生生活でよく出会う身体の不調や症状、病気、捻挫や骨折などの外傷、温熱や化学物質による熱傷、環境要因による障害、中毒、感染症などをわかりやすく学ぶとともに、予防法や自分でも出来る応急処置について学習します。また AED の使用も含めた救命救急処置について、授業による知識だけでなく、マネキンや AED のトレーニングキットなどを十分に使った実習を行い実技を習得します。これで得たスキルは一生役立ちます。</p>		
備考	<p>【事前登録対象】(保健管理センター企画) 実技があり実技に使うトレーニングキットの数および教員の指導可能人数に限りがあるため、受講上限数を 40 名とする。</p> <p>【定員 40 名程度】</p>		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	<p>1. 大学生活への適応, 3. 自律的な自己確立とキャリアプラン作り</p> <p>学生生活でよく出会う身体の不調や症状や病気、捻挫や骨折などの外傷、温熱や化学実験などで用いる化学物質による熱傷、寒冷・暑さ・気圧などの環境要因による障害、中毒、感染症などをわかりやすく学ぶとともに、予防法や自分でも出来る応急処置について学習する。また AED の使用も含めた救命救急処置について、授業による知識だけでなく救命救急に携わる救急士の現場の声を聞き、マネキンや AED のトレーニングキットなどを十分に使った実習を行い、実技を習得する。生涯にわたり役に立つスキルを身に付ける。</p>		
到達目標	よく出会う病気、外傷およびその応急処置について理解する。さらに心肺蘇生法、AED の使用などの救命救急処置のスキルを身に付ける。		
キーワード	応急処置, 救命救急, 救急室, 心肺蘇生, AED, 外傷, 中毒, 腹痛, 喘息, ドクターヘリ, ドクターカー		
各回授業計画	<p>第 1~8 回目までは講義、第 9~10 回目は心肺蘇生法の実習となります。</p> <p>第 1 回【10 月 7 日 下條信威 医学医療系】 [環境要因による障害 1] 熱中症、低体温症、凍傷、高山病、減圧症、など物理的な過度の刺激、あるいはその影響によって引き起こされる疾患と、それらに対する初期対応について解説する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 18 日 (振替授業日) 金子剛 医学医療系/保健管理センター】 [おなかの 119 番] 学生時代において遭遇しやすい腹部症状や一般的によく遭遇する腹部疾患について実例を挙げて学び、その初期対応や予防方法について解説する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 21 日 船山徹 医学医療系/保健管理センター】 [外傷・骨折・捻挫の応急処置・救急処置] 大学生活で起こりうる捻挫、骨折などの外傷の応急処置について講義する。特に学内で問題となっている自転車事故、スポーツ外傷・障害について予防と対処法について講義する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 28 日 坂本 透 医学医療系/保健管理センター】 [学生が遭遇する応急対応の必要な呼吸器疾患] 呼吸器系は、その機能が障害されると生命が脅かされる場合もある。学生などの若者で応急対応が必要となることのある呼吸器疾患には、気管支喘息、自然気胸、肺炎などがあるので、これらについて概説する。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 6 日 (振替授業日) 安田貢/水戸医療センター】 [救命救急の現場から] 救急車・ドクターカー・ドクターヘリによる重症患者搬送、救命救急室の救急・救命の実際に日常携わっている医師・救命救急士が、救急の現場からの臨場感あふれる生の声を発信する。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 18 日 久賀圭祐 医学医療系/保健管理センター】 [心臓突然死~AED] 日本では心臓突然死で 1 年に 3 万~5 万人が亡くなっているが、迅速な救命処置で救命できる。AED について、使用方法、有効性の実証、臨場感あふれる使用現場、使用されて救命された例、法律の問題を解説する。</p>		

	<p>第7回【11月25日 井上貴昭 医学医療系】 [環境要因による障害 2] 中毒、化学薬品による熱傷、などによって引き起こされる病態について、予防、初期対応、病院ではどう治療するかを中心に解説する。</p> <hr/> <p>第8回【12月2日 高橋伸二 医学医療系】 [心肺蘇生法] 心肺蘇生法の歴史と、実際のデータに基づいて2015年に改訂された最新の心肺蘇生法の実際と理論について解説する。</p> <hr/> <p>第9回【12月9日 高橋伸二 医学医療系】 [心肺蘇生法の実習-1] 心肺蘇生用のマネキン、AEDシミュレータなどのトレーニングキットを使って、少人数グループに分かれて、経験豊富なインストラクターによる指導、DVDメディアの活用により、「できるようになるまで」実習を行う。</p> <hr/> <p>第10回【12月16日 山下創一郎 医学医療系】 [心肺蘇生法の実習-2] 心肺蘇生用のマネキン、AEDシミュレータなどのトレーニングキットを使って、少人数グループに分かれて、経験豊富なインストラクターによる指導、DVDメディアの活用により、「できるようになるまで」実習を行う。</p> <hr/> <p>第11回【12月23日 久賀圭祐 医学医療系/保健管理センター】 [期末試験]</p>
履修条件	実技があり実技に使うトレーニングキットの数および教員の指導可能人数に限りがあるため、受講上限数を40名とします。
成績評価方法	期末試験で評価する。
授業外における学習方法	日赤、各地の消防署、筑波大学内などで随時開催している講習会に参加すれば、さらにスキルアップができる。
教材・参考文献	各授業のレジюмеなど。
オフィスアワー・連絡先	保健管理センター(医学系学系棟108室) 木曜日 13:30-14:30 内線 2400(PHS 91625) kuga.keisuke.gp@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	心肺蘇生を体得することを真剣に考えている学生の受講を望みます。

授業科目名	社会基礎学I-「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界 トップリーダーによる連続リレー講義		
科目番号	1226151	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1年次	時間割	春 AB 集中
担当教員	五十嵐 浩也, 坪内 孝司		
授業概要	世界は、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、この講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。1「グローバル化と地域の日本のあり方」、2「政治・政策」、3「安全保障・憲法」、4「経済・産業」、5「資源・エネルギー」、6「世界/アジア」(順不同)		
備考	【事前登録対象】(教育企画室企画) 5/18,6/1,6/8,6/15,6/22,7/6 【定員 300名】 7/6 は期末試験日です。		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分			
教育目的	2,3		
到達目標	社会の営み全般において密接に関係し合う、1 グローバル化と地域の日本のあり方、2 政治・政策、3 安全保障・憲法、4 経済・産業、5 資源・エネルギー、6 世界/アジア、の重点6分野のそれぞれにおいて、現代社会が抱えている問題やその問題解決のアプローチを、講義内容に即して説明することができる。 2 前記6分野における問題解決が、多くの場合、それぞれの分野にまたがって広範に関連し合うことを、講義の内容に即して説明できる。 3 社会の諸問題を解決するための方法論を提案でき、様々な分野や国にまたがる視座をもつ「グローバル人材」像を、その能力の具体例とともに説明できる。		
キーワード	グローバル化, グローバル人材, 社会基礎学, 地方の活性化		
各回授業計画	<p>第1回【5月18日 徳永 保 筑波大学特命教授, 坪内 孝司 筑波大学 教授 教育企画室長】 [導入講義 I] 筑波大学におけるグローバル人材育成方針 【5月18日 三浦 潔司 JAPIC 常務理事】 [導入講義 II] 連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <hr/> <p>第2回【5月18日 吉村 麻央 石破茂衆議院議員 政策担当秘書, 中村 宏之(株) 読売新聞大阪本社編集委員, 徳永 保 筑波大学 特命教授, 三浦 潔司 JAPIC 常務理事, 五十嵐 浩也 本学教員 (コーディネーター)] [パネルディスカッション] 第1部 [グローバル化とは何か?] グローバル化の中で日本は? グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。 第2部 [学生は何を学び、何を身に付けるべきか?] グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。</p>		

**第3回【6月1日 森 昌文 国土交通省 事務次官】**

[未来の国土づくりを担う皆さんへ]

我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土交通省のトップとして国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況とそれへの対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。

**第4回【6月1日 守山 宏道 経済産業省 地域経済産業グループ 地域産業基盤整備課長】**

[生産性向上を通じた経済成長戦略]

我が国経済は、世界経済の活力の積極的な取り込み、少子高齢化や第4次産業革命への対応等を図りつつ、安定的成長を実現していくことが課題。特に、人手不足問題が顕著になっている中、働き方改革も実現していくためには、我が国産業の生産性の向上が不可欠。政府としては、平成30年度から3年間で政策集中期間として、生産性の向上に取り組んでいる。本講義では、その具体的な取り組みの背景や方向性について扱う。

**第5回【6月8日 坂本 威午 (独) 国際協力機構 (JICA) 中東・欧州部長】**

[国際協力の考え方、およびその実践を通じたグローバル人材の必要要素について]

日本国内における課題も多々ある中でも日本はなぜ遠い国への国際協力を推進しているのか、そして、どのような思想・理念で国際協力を行うのか。また、国際協力の実践を通じて、グローバル人材として求められる要素はどのようなものが重要と考えられるか。こうした点について、具体的な事例も紹介しつつ、受講者とともにインタラクティブに議論し、思索を深める。

**第6回【6月8日 牧村 和彦 計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長】**

[モビリティ革命と MaaS(マース)]

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」。「様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスが MaaS です。本講義では、MaaS が私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

**第7回【6月15日 島崎 豊 丸紅 (株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長】**

[総合商社とサステナビリティ経営]

「環境、社会と共存するシステムをいかに築くか」というサステナビリティへの対応は、いま、地球規模での優先課題になっている。環境問題や人権への配慮などサステナビリティに対する姿勢が企業を評価する際の重要な判断基準になりつつある中、世界で展開する総合商社がどのようにサステナビリティに向き合っているのか、そのビジネスを通じて取組を紹介する。

**第8回【6月15日 岡部 央 (一社) 共同通信社 経理局長】**

[経済を読み解く鍵「ニュースという「窓」から見る世界]

「日本は戦後最長の景気拡大が続いているって言うけど、実感が乏しいのはどうして」「米中が貿易問題で衝突する背景には何があるの」。経済ニュースには、いくつもの「？」があるのではないのでしょうか。経済の動きと背景を理解することは、社会で活躍していくために不可欠な教養の一つです。経済ニュースを、どう読み、理解していけばいいのか。最新の経済動向を踏まえながら、経済を読み解く「鍵」を解説します。

**第9回【6月22日 太田 誠 21世紀政策研究所 事務局長】**

[国際秩序の変容と産業界の対応]

国際社会を支えてきた自由貿易体制、民主主義体制など既存の秩序・価値が、現在、「分断」「分裂」という形を伴って顕著に変容しつつある。そうした中、日本にも従来とは全く異なる対応が求められている。日本が置かれた現状をいかに捕捉し対処すべきか。本講義では、産業界を国際社会の主要主体のひとつに位置づけ、産業界の視点から米国、中国、欧州など主要国・地域の動向を説明するとともに、課題解決に向けた対応も検討する。

**第10回【6月22日 雨宮 克也 三井不動産 (株) 開発企画部環境創造グループ グループ長】**

[世界都市東京、都市開発の潮流]

成熟期の世界都市、東京。都市計画と都市開発に求められる社会的要請は量から質に明らかに変化しています。そして都市計画の実現手段である具体の規制と事業は企業と地域社会に委ねられる傾向にあります。この潮流の中、今東京では社会基盤の整備を含む都市の機能更新としての都市開発が進んでいます。いくつかのケースを「企業と地域との連携」という視点で提示します。皆さんとの活発なディスカッションを期待します。

	第 11 回【7月6日】 期末試験
履修条件	第 1 回授業日の 14:00 から行うオリエンテーションに必ず出席すること。
成績評価方法	期末試験の結果により評価する。なお、期末試験の方法等はオリエンテーションにおいて説明する。
授業外における 学習方法	各講義で紹介する。
教材・参考文献	各講義で紹介する。
オフィスア ワー・連絡先	
履修者へのメッ セージ	各講義で紹介する。



授業科目名	ダイバーシティ&インクルージョン入門		
科目番号	1226181	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 BC 水 5
担当教員	野口 代, 佐々木 銀河, 河野 禎之		
授業概要	障害、性別、文化、世代など、多様な背景をもつ人々が包摂された社会の実現のために、身体障害や発達障害といった障害の理解に関する講義をはじめ、性や国籍、言語などに関する多様性についても幅広く紹介する。また、多様性に関するテクノロジーや公共政策といったマクロな視点も通して、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて、受講生が自ら考える機会を提供する。		
備考	【事前登録対象】(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター企画)【定員 150 名】		
授業形態	講義		
科目群			
水準・区分	100 番台・学際的科目		
教育目的			
到達目標	ダイバーシティ&インクルージョンの考え方、多様な背景をもつ人々が共生する社会のあり方について、受講生自身のことばで説明できる。さらに、多様な人々との日常での関わり方やダイバーシティ推進に関する問題意識を高め、一人ひとりが主体的に共生社会の一員として貢献できるようにすることを目標とする。		
キーワード	ダイバーシティ、インクルージョン、キャリア		
各回授業計画	<p>第 1 回【5 月 29 日:五十嵐浩也 芸術系】ダイバーシティ (多様性) とは? 「ダイバーシティ (多様性)」について講義を行うことで、ダイバーシティの定義や、現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。</p> <hr/> <p>第 2 回【6 月 5 日:明石純一 人文社会系】多様性と公共政策 「多様性と公共政策」について講義を行うことで、国際移住者を中心に多様な文化的背景をもつ人々が共生することのできる社会と政策についての学習をする。</p> <hr/> <p>第 3 回【6 月 12 日:佐々木銀河 DAC センター】脳の多様性～発達障害～ 「脳の多様性」について講義を行うことで、発達障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。</p> <hr/> <p>第 4 回【6 月 19 日:河野禎之 人間系】性の多様性～LGBT～ 「性の多様性」について講義を行うことで、LGBT の実態や、LGBT の人への支援等について学習する。</p> <hr/> <p>第 5 回【6 月 26 日:磐崎弘貞 人文社会系】言語と性と多様性 辞書や教科書において、性差別がどのように反映されていたか、そしてそれがどのように改善されてきたかについて学習する。</p> <hr/> <p>第 6 回【7 月 3 日:野口 代 人間系】からだの多様性～身体障害～ 「からだの多様性」について講義を行うことで、身体障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。</p> <hr/> <p>第 7 回【7 月 10 日:鈴木健嗣 システム情報系】ダイバーシティとテクノロジー 「ダイバーシティとテクノロジー」について講義を行うことで、ダイバーシティとインクルージョンの支援、アクセシビリティに関するテクノロジーの利用や現状の課題、今後の発展等について学習する。</p> <hr/> <p>第 8 回【7 月 17 日:伊藤義博 電通ダイバーシティラボ】企業とダイバーシティ 「企業とダイバーシティ」について講義を行うことで、企業におけるダイバーシティの現状や、制度等について学習する。</p> <hr/> <p>第 9 回【7 月 24 日:五十嵐浩也 芸術系】キャリア・働き方の多様性 「キャリアや働き方」について講義を行うことで、就労の実態や、就労に関する支援・制度等について学習する。</p> <hr/> <p>第 10 回【7 月 31 日:河野禎之 人間系】ダイバーシティ推進について これまでの講義を踏まえた「ダイバーシティ推進」に関する講義とグループワークを通じて、ダイバーシティ推進の意義や今後の課題等について理解を深める。</p> <hr/> <p>第 11 回【8 月 7 日:期末試験】</p>		
履修条件			
成績評価方法	各回のリアクションペーパー (20%) と、学期末試験 (80%) により総合的に評価する。		
授業外における学習方法	ダイバーシティやインクルージョンについては、学内外の様々な場所において学ぶことや体験することができる。本講義の担当教員にそのような機会の得られる場についても積極的に質問するなどして、問題意識を深めてほしい。		

教材・参考文献	適宜紹介
オフィス ワー・連絡先	野口 代 人間系学系棟 B103 dainoguchi@ human.tsukuba.ac.jp 火曜 12 時 ~ 13 時
履修者へのメッ セージ	授業を通して、ダイバーシティやインクルージョンに関する基礎的知識を学ぶとともに、この分野に関わる研究、諸問題について理解し、より専門的な学習を進めていくための意識を高めることを期待する。

授業科目名	次世代起業家養成講座		
科目番号	1226194	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 月 6
担当教員	尾内 敏彦, 五十嵐 浩也, 矢野 博明, 佐々木 銀河, 木下 奈都子		
授業概要	次世代起業家を養成するための基盤として、アントレプレナーシップ、社会課題の発見、知的財産とアイデア創出、ビジネスモデルの基本等を、つくば地区の研究シーズからビジネスプランに発展させる学生参加型の演習と講義を交えた PBL(Project Based Learning) 形式を含めて学習する。本授業を受講後に、筑波クリエイティブキャンブ・ベーシック、筑波クリエイティブキャンブ・アドバンスト等の実践的な起業家教育講座を受講することで一層効果的となる。		
備考	【事前登録対象】(国際産学連携本部企画) 【定員 150 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群			
水準・区分			
教育目的	起業に興味を持つ人材の育成		
到達目標	(1) 起業家精神とは何かを理解すること。 (2) 社会課題の発見に意識を持つようになること。 (3) 研究や企業活動で必要となる基本的な知的財産やビジネスなどについて考えられるようになること。 (4) アイデア創造からビジネスプランに結び付ける意識が持てるようになること (5) グループワークを通じて、チームワークにより 1 つの結論を導きだせるようになること。		
キーワード	起業, アントレプレナー, ビジネスモデル, 知的財産, アイデア創造		
各回授業計画	第 1 回【4 月 15 日 外部講師 五十嵐 浩也 芸術系 他】 [次世代の起業家になるために/ガイダンス] ベンチャー創業者の講演を聴講し、どのように社会課題を設定しこれを解決して事業に結び付けたかを知る <hr/> 第 2 回【4 月 22 日 外部講師】 [つくば地区研究シーズを知る] つくば地区研究シーズについて理解し取り組む課題を選択する (シーズ提供者による説明、取り組むシーズの検討; 第 3 回までに希望票提出) <hr/> 第 3 回【5 月 9 日 尾崎 典明 国際産学連携本部 他】 [チーム形成・取り組むシーズの設定] チームを形成し、取り組むシーズがどのような社会課題に結び付くか考えてワークシート作成 <hr/> 第 4 回【5 月 13 日 尾内 敏彦 国際産学連携本部】 [アイデア創出の基本] アイデア発想法/課題解決手法を講義と演習で学ぶ <hr/> 第 5 回【5 月 20 日 尾崎 典明 国際産学連携本部】 [ビジネスの基礎] ビジネスモデル・マーケティング基礎をビジネスモデルキャンパスなどの講義と演習で学ぶ <hr/> 第 6 回【5 月 27 日 尾内 敏彦 国際産学連携本部】 [シーズ発展 1] 知財の基本・調査方法・発明の捉え方の講義と演習 <hr/> 第 7 回【6 月 3 日 外部講師】 [シーズ発展 2] 新しい時代の流れを把握し如何に社会課題を見出すか、について講演を聴講しそれを参考にして事業提案書の概要を検討 <hr/> 第 8 回【6 月 10 日 尾内 敏彦 国際産学連携本部】 [シーズ発展 3] 社会課題解決のアイデアとビジネス性について討論して事業提案書を作成 <hr/> 第 9 回【6 月 17 日 尾崎 典明 国際産学連携本部 他】 [シーズ発展 4] 発表スキルの講義、発表練習およびブラッシュアップ		

	<p>第10回【6月24日 五十嵐 浩也 芸術系 他】  [提案発表会]  事業提案書の発表会 (事業アイデアの紹介、社会課題解決のために何をするかなど)</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>1) 演習で行うワークシート、提案シート (70%):70% 以上の提出および到達目標に挙げた各項目に照らして採点  2) 授業に取り組む態度や姿勢とチーム貢献度 (20%):授業での質疑やチーム活動の状況 (リーダー、発表、提案など) により採点  3) 提案内容の発表 (10%):最終発表会の内容により採点  以上3つのトータルで評価する。</p>
授業外における学習方法	<p>取り組む課題を理解し事業提案書を作成するために、シーズ提供者へのインタビューや、提案書のまとめ作業・プレゼン資料作成・練習などを各授業間のインターバルでも指示に従って行うこと。</p>
教材・参考文献	<p>各回の授業で配布する資料を中心に行う。ただし、以下の参考文献を学習すると良い。  1. アレックス・オスターワルダー 他, ビジネスモデルジェネレーション  2. サラス・サラスバシー, エフェクチュエーション  3. ベン・シュナイダーマン, The new ABCs of Research  4. 社団法人発明協会編, 事業戦略と知的財産マネジメント</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>尾内 敏彦 随時 (事前に e-mail で連絡のこと)  高細精医療イノベーション棟 204 ouchi.toshihiko.gm at un.tsukuba.ac.jp</p>
履修者へのメッセージ	<p>近年、日本の産業の復興とそのため起業家精神の発揮が求められている。何か新しいことをやりたい、ベンチャーを興したい、アイデアをビジネスに結び付けたいなど、漠然とした自分の考えを具体化していくことでそれが実現できる。講座でそのような取り組みを身につける効果を最大限にするため、各自が積極的に授業に参加し、必要に応じた自主学習を行うこと。</p>